

株式会社キッズステーション

番組審議会議事録

■ 開催年月日：2017年11月20日（月）14:00-16:30

■ 開催場所：株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント
竹芝オフィス 17階大会議室

■ 委員の総数：6名 出席委員数：0名

出席委員の氏名： 重村 一、内山 隆、大宅 映子、
泊 懋、中山 雅葉子、脇田 直枝、

放送会社側出席者名： 代表取締役社長 滝山 正夫
取締役副社長兼ゼネラルマネージャー 佐々木 朗
編成部部长 坂本 直紀
制作部部长 押田 聖弘

■ 議題：

- 1) キッズステーションの現状及び編成方針の説明
- 2) キッズステーション：「ABCブロッコリ！」について番組審議

放送日程：2017年10月2日スタート 毎週（月～金）午前11:00～

（リピート：毎週（月～金）午後3:30～）

審議作品の概要

「ABC ブロッコリ！」は国内で高まる英語教育のニーズを受けて、キッズステーションが制作するオリジナルの未就学児向け英語知育バラエティ番組です。この番組では、幼児の言語習得プロセスに着目して提唱された英語教授法のひとつである TPR（Total Physical Response Approach：全身反応教授法）を通じて英語を学びます。白百合女子大学の倉住修准教授にご監修いただき、日本の義務教育に準じる米語を基本とした内容でお届けいたします。

■ 審議内容

- 英語番組としてTRPを取り上げた番組のコンセプトはよい。
- ターゲット0～6歳の未就学児と母親だが、英語ができる母親向けという印象を受ける。英語だけのフレーズも多く、英語が堪能でない母親は答えられないのではないかな。
- 内容を詰め込みすぎている。
- 世界観はファッショナブルで可愛いだが、男性キャラクターの魅力が薄い。衣装が残念で子供から見たら少し怖いと感じさせるのではないかな。
- おふとん体操の和室が昭和すぎる、都会的な世界観とのギャップが激しい。
- 全体的に煩い、色がきつく落ち着きがない。
- 言語習得ならば30分の中で言葉を繰り返し、1話の中で1つ言葉を習得できる内容にすべきではないかな。
- 最初に取り上げた言葉のハードルが高い、カタカナ英語になっている馴染みのある単語を使った方が子供にはわかりやすい。
- 寝る前におふとん体操しては寝る子も寝られない。
- ABCのあとにB（ブロッコリ）に戻るのは何故か？D（ドルフィン）なら理解できるが。
- メインMCについて、ベースの米語ではなく発音的には豪州英語とを感じる箇所があったが、踊りも上手く慣れている感じはとても良い。
- 内容ジャンル外のため、テレビ番組関係者のコメントを紹介。
- アメリカのカートゥーン的な色使い・キャラクターとEテレの「英語であそぼ」を合わせたような印象。
- オープニングは子供には合わない長さと感じたが、途中からはテンポよく楽しめた。

- 女性キャストのテンションが低めなので、外国人キャストの底抜けに明るく温かい方が全体の印象を楽しくすると思う。
- 差別化のために全編英語オンリーの内容でもよかった。
- ライバルはNHKと感じた。
- 番組自体は素晴らしいと感じたが時間帯が残念、放送時間の午前11:00に30分子供にテレビを見せる時間が作れるか疑問。
- 子供がテレビの前で30分見続けるのは難しい、ミニ番組にして毎日きまった時間に放送していく方が効果的と思う。
- 保育園・幼稚園や区の児童館などできまった時間に流してもらうなど活用できればよいと思う。
- 緩急がなく30分ずっと全力で見ていると疲れる。
- 色味が少し重い、もう少し低コントラストにしたほうが良いと思った。
- 米語としているが発音が気になる箇所があった。
- 名詞ではなく動詞をコンセプトにしたのは良かったが、最初の動詞はもっと簡単な言葉でも良かったと感じる。
- 子供に正しい発音を覚えてもらうために、ゆっくり正しい発音を聞かせる時間があってもよかったと思う。
- ペイチャンネルにおいて英語教育番組を加入に繋げるのは難しい、ショート番組を帯編成でたくさん見せていく方が、お母さんは子供に番組を見せるのではないか。
- 英語教育番組を全面に押し出したコンセプトではなく、例えば「きかんしゃトーマス」の様なストーリーを英語で聞かせるほうが英語教育には貢献できるのではないか。

以 上